

看護 かごしま

Nursing
Kagoshima



<http://k-kango.jp>

2016.Winter Vol.162

迎
春



大隅鹿屋病院

◆年頭のごあいさつ	2
◆ほっとニュース	4
①「性教育研修会」のお知らせ	
②「鹿児島県看護協会会員施設代表者説明会」のお知らせ	
③看護職員就業相談事業のおしらせ	
④平成 28 年度 看護協会入会受付が始まりました	
⑤平成 29 年度からの継続手続きが変更になります	
◆研修報告	6
◆めざせ認定看護師	8
◆看護師のあるある！	10
◆職場紹介	12
◆事業検討会・地区別高齢者ケア施設の看護管理者交流会	13
◆地区だより	14
◆ナースセンターだより	17
◆理事会報告	20

平成 27 年度鹿児島県看護協会会員数

保 健 師	425 人
助 産 師	358 人
看 護 師	10,035 人
准看護師	920 人
合 計	11,738 人

平成 28 年 1 月 5 日現在
※前年同月より 100 人増





年頭のごあいさつ

～輝く1年となりますように～



公益社団法人
鹿児島県看護協会会長

平川涼子

新年を迎え、皆様に謹んでお慶びを申し上げます。
日頃から本会事業に対し多大な御協力と御理解を賜り、心から感謝申し上げます。

今年は、オリンピックの年です。初の南アメリカ大陸ブラジル（リオデジャネイロ）での開催となり、日本との縁も深い地です。4年後の東京オリンピックへの思いをはせながら観戦できるのが楽しみです。

一年のはじまり、皆様はどのような目標をたてられたでしょうか。ぜひ、自分が輝くようなわくわくできる楽しみを見つけて続けて下さることをお願いしたいと思います。楽しい習慣をもつことは、心身ともに活性化し免疫力も上がります。皆様が元気に笑顔で仕事なさることが、県民の皆様の健康生活の向上につながると思います。看護実践力を高め、看護の本質である「その人らしく生きることを支える」に向けて、今年も一緒にがんばりましょう。

さて、2025年まで10年を切りました。少子超高齢社会をどう乗り切るかについて様々な議論があります。とりわけ地域医療構想においては、2次医療圏毎にその地域の人口構造、疾病構造、受診行動、治療内容、平均在院日数、病院・病床の機能分化・強化、医療職需給状況等多くのデータを収集分析し、その地域にあったビジョンを策定することが求められています。これからの動きに注目し、ご自分の地域の未来について考えていただきたいと思います。昨年は、看護職に関連した新たな制度も創設されました。「離職した看護職の届け出制度」と、「特定行為に関する研修制度」です。今年はこの制度を活用した様々な事業も増えていくことだと思います。

公益社団法人として5年目となります。県民の皆様のニーズにこたえられる職能団体としてさらに貢献したいと考えております。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



公益社団法人
鹿児島県看護協会副会長

田畠千穂子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様、穏やかな年を迎えていらっしゃることと、心よりお慶び申し上げます。

今、地域包括ケアシステムの構築に向けて看護職への期待は高く、本会事業でも重点課題に掲げております。医療と介護の連携など、看護職の人材育成は喫緊の課題と考えます。平成28年度は診療報酬改定の年です。日本看護サミットでは「看護職員の月平均夜勤時間要件72時間要件の堅持」が宣言されました。本県も人材確保が深刻化しつつありますが、WL B推進ワークショップへの参加施設は魅力ある職場づくりに成功されております。

今年も、県民の皆様のニーズに応えられる職能団体として、平川会長を補佐しながら会員・役員の皆様と一緒に頑張りますので、宜しくお願ひ致します。



公益社団法人
鹿児島県看護協会副会長

内司啓子

新年を迎え、会員の皆様が健康で希望に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。私は、昨年から副会長の役割を頂きました。

医療機関の機能分化と地域包括ケアシステムの構築と推進などの動向に対し、県民の皆様がいかに安心して医療が受けられ、また地域で暮らしていくか、引き続き共通の課題として取り組んでいかなければなりません。常日頃、感じておりますことは、病院、福祉・介護施設、地域、行政、学校などそれぞれの職場で働いています看護職の皆様により鹿児島県の看護は支えられているということです。

そんな皆様が、やりがいを持って働き続けられる環境づくりやキャリアアップを図るための支援など、皆様の声を反映しつつ、会長の下で役員の方々の協力を頂きつつ行って参りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



年頭のごあいさつ

「地域包括ケア体制づくりに向けて 看護職に期待するもの」

鹿児島県保健福祉部長

古 薗 宏 明

新年明けましておめでとうございます。

鹿児島県看護協会の皆様方には、日頃から、本県の保健医療福祉行政に対して格別の御理解と御協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、2025年にはいわゆる「団塊の世代」の方々が全員75歳以上になるなど高齢化が更に進行する中で、国においては、効率的で質の高い医療提供体制の構築と医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいるところです。

本県においても、高齢化の進行によって、今後ますます医療依存度の高い在宅療養者が増えることが見込まれており、保健・医療・介護連携の調整等において、看護職が多職種協働のキーパーソンとなることは、在宅療養者が、病気や障害を抱えながらも、できるだけ自立し、「生活の質」や尊厳を保持した誇りある人生を送る上でとても重要なっていると考えます。

県としては、病床機能の分化・連携の推進による入院医療機能の強化等を図るために、関係機関・団体と連携・協力しながら、地域医療ビジョンの策定に取り組むとともに、在宅療養環境の整備の更なる推進を図るなど、市町村における地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの構築を支援してまいりたいと考えております。

本年も「県民が健康で長生きでき、いつでも、どこでも、安心して医療を受けられる鹿児島」の実現のために、引き続き、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、鹿児島県看護協会のますますの御発展と皆様方の御健勝・御多幸を心から祈念いたします。



重要な役割担う看護師さん

～地域包括ケアシステム構築にあたって～

公益社団法人鹿児島県医師会

会長 池 田 琢 哉

新年早々、周りのお年寄りに「どこで最期を迎えたいですか」と尋ねてみたのです。すると、大半の人が「自宅で、家族に囲まれながら、穏やかに」と答えました。

「地域包括ケアシステム」という言葉は、なんとなく硬く感じられますが、高齢者等ができる限り住み慣れた地域のなかで、穏やかに暮らしてもらうための施策なのです。システムの構築には、医療だけではなく、介護・福祉・保健が一体となっての取り組み、さらには患者さんのための「24時間の医療と看護」も求められています。「多職種の連携は」、「在宅医療をどうするのか」、「支援病院の整備は」といった課題も克服しなければなりません。

「病院」から「地域」へと治療や生活が変化すれば、そこに住む人全てが自助・互助・共助の心を持って暮らしていかねばなりません。「充実感を持って生きていくこと」が、ケアシステムの根底にあり、それは、街づくりにも繋がっていきます。単に医療の形態が変わるだけではないのです。

ケアシステムのなかで、看護師さんの役割はさらに重要なになってきます。今、活躍の場は入院治療や施設入所による看護・介護に留まらず、地域社会へと広がりをみせているのです。患者さんの死と直面する機会も多くなっていますが、「最期」をともに過ごすことで、人間として大切なことを学ぶことにもなります。

こんなに大事な看護師さんが慢性的に不足しています。鹿児島県では、年間1300人ほど誕生していますが、多くは県外に出てしまい、地方では、深刻な状況が生まれています。

県医師会は看護師不足の解決になればと、一昨年「はやぶさ基金」を創設しました。地元に残って地域医療に貢献したいと頑張る医師、看護師、助産師さんの生活を支援する基金です。我々の思いが一杯詰まっている基金でもあります。ことし4月から、具体的な支援を始めることになります。

IT化が進み、医療がどんなに高度になろうとも、患者さんと医師、看護師など医療スタッフとの信頼関係、心の交流がなければ、それは「医療の現場」とは言えません。「チーム医療」は関係職種の参加で今後ますます重要になってきます。今、我々は将来の地域医療の在り方を考える「地域医療構想」の策定と取り組んでいますが、看護師さんを抜きにしては「青写真」を描けないので。医療関係の人材が、「未来を支える」と言っても過言ではありません。

展望の持てるよき年でありますよう、皆様方と一緒にがんばっていこうと思います。



ほつとニュース

1

「性教育研修会」のお知らせ

性教育推進事業支援委員会では、性教育に関心のある看護職を対象に「性教育研修会」を開催します。ぜひご参加ください。

日 時：平成 28 年 2 月 27 日（土）13:00～17:00

場 所：研修会館 2 階研修室

内 容：1)性教育に関する講演（13:00～14:00）

情報交換会

講 師：内田洋介先生（今村病院泌尿器科部長）

受講料：会員 1000 円、非会員 2000 円

内 容：男子学生からみた性教育（仮題）

申込〆切：2 月 19 日（金）

2)今年度の性教育授業の振り返り

2

「鹿児島県看護協会会員施設代表者説明会」のお知らせ

平成 29 年度から、看護協会入会手続きを変更するにあたり、「鹿児島県看護協会会員施設代表者説明会」の実施を予定しております。

日 時：平成 28 年 2 月 25 日（木）13:30～15:00

場 所：看護研修会館 3 階大研修室

内 容：新「会員情報管理体制」の説明

看護職の離職届出制度について

情報提供・看護師の特定行為研修制度等について

参加費：無料

ご案内は後日発送いたしますので、たくさんのご参加をお待ちしております。

3

看護職員就業相談事業のおしらせ

「鹿児島県ナースセンターとハローワークが連携し、看護職によるきめ細やかな専門的就業を実施することにより看護職及び館が学生等に対し、就業、進学に関する細やかな支援を行うことで就業促進や離職防止を図り、もって地域偏在の改善と看護職の確保・定着を促進する」事を目的に、平成 26 年 12 月 18 日から平成 29 年 3 月 31 日までの事業がスタートしました。

相談員として養成された看護職 16 名が、指宿、加世田、川内、出水、国分、鹿屋、熊毛、名瀬の 8 カ所の担当するハローワークに月 1 回赴き、看護職の就業希望者に対して、就業を容易にするための看護技術についての相談や、求人状況に関する情報の提供等を行っています。又、これから看護職になろうと希望する方への進学支援も行っています。

具体的な相談活動は平成 27 年 6 月から始まり、10 月までの 5 か月間で 8 カ所合計 74 件の相談実績が上がりました。

★県内 8 カ所のハローワーク（以下 HW と略す）の担当相談員を以下にご紹介します。（敬称略）

HW 指宿	HW 加世田	HW 川内	HW 出水	HW 国分	HW 鹿屋	HW 熊毛	HW 名瀬
北 和 代	川上百合子	勝 間 理 恵	寺 地 律 子	三石久美子	赤崎えり子	岸 田 時 子	山口智代子
山下恵美子	池 野 正 子	松 原 幸 江	福 留 いつよ	児 島 良 子	原 田 すず子	屋 ま す 江	

★ HW 毎に相談日時を決めてありますので、詳細は本協会ホームページをご覧下さい。

★ 平成 27 年 11 月 26 日（木）に「就業相談員研修会」を開催しました。その際の相談員意見交換会では、出席された 15 名の相談員から、以下のよう建設的な意見が述べされました。

- ・ハローワークでは、じっくりと時間をかけて相談者へ向き合えたのでよかった。
- ・家で一人で悶々と悩んでおられる潜在看護職があり、その人たちがハローワークに足を運び、同じ看護職である相談員に相談する機会を得られており、成果が上がっていると実感する。
- ・過去の職場や、現在従事している職場での悩みや愚痴で相談に来る方もおられるが、相談者に気持ちを表出することで整理がついて落ち着かれるケースもある。
- ・長いブランクのある方が相談に来られる事があるが、再就職を楽観的に考えている方もある。そのような方には、個々の状況を聞き、現実的な助言をしている。



就業相談員研修会では、午後から鹿児島市立病院の見学に行きました。

4

平成28年度 看護協会入会受付が始まりました

- ◇ 会員期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日
 - ◇ 平成28年度会員証の送付は、3月以降となります。
施設にお勤めの方は、入会手続きされた施設へ会員代表者様宛にお送りいたします。
個人会員の方は、登録されている住所へお送りいたします。
施設異動、改姓、紛失による会員証の再発行は行っておりませんのでご了承ください。
 - ◇ 平成28年4月1日から会員特典等サービスを受けられますよう入会手続きは、お早めにお願いいたします。
- ※詳細につきましては、鹿児島県看護協会のホームページ（<http://k-kango.jp>）をご参照下さい。

5

平成29年度からの継続手続きが変更になります。

新体制の目的

- ①施設代表者の事務作業軽減、現金取り扱いリスク軽減
- ②入会組織率の維持・向上
- ③会員サービスの充実・向上

今後のスケジュール

平成28年度の
入会手続きは
変わりません。



毎年の継続手続きの簡略化

毎年、全ての会員にご記入いただいた継続申請書の提出がなくなります。代わって、翌年度の「会費のお知らせ」を送付いたしますので、会員の皆さまへの配布をお願いします。



手続きの軽減、
効率化

口座振替(自動引落)を導入

会員の個人口座から会費の自動引き落としが行えるようになります。簡単で安全に会費を納入していただけます。
※従来通り、施設で会費をとりまとめて納入することも選択できます。



会員証リニューアル

紙の会員証から硬質の永年会員証に切り替わります。また、スマートフォンなどで確認できる電子会員証も導入します。



マイページを開設

WEB上に会員専用の「マイページ」を開設します。会員情報や活動歴などの確認や住所変更の手続きが行えます。
また、現行の会員専用ページ「会員ダイレクト」に掲載している情報（「協会ニュース」バックナンバー、認定看護師教育課程入試問題、日本看護学会抄録など）は、マイページ上で、手続きなしでご覧いただけるようになります。



施設専用のWEB機能を導入

施設代表者の皆さまは、施設用WEBで、所属する会員の入会手続きや会費の納入状況が確認できるようになります。

Q1 会費の納入方法は施設で決められますか？

A1 はい。会費納入の方法は、施設ごとに口座振替または銀行振込を選択いただきます。

重要

Q2これまで通り、施設で現金をとりまとめて会費を納入することができますか？

A2 施設での会費のとりまとめは、引き続きご利用いただけます。

施設で会費をとりまとめて納入いただく場合、納入方法は銀行振込となります。振込先は収納代行を委託した会社の口座になります。

※振込手数料が発生しますので、手数料のかからない個人での口座振替をお勧めします。

重要

研修報告

平成27年度も、「県民の健康生活を実現し、公衆衛生の向上に寄与できる看護職を育成する」という教育理念のもと、企画した研修会を予定通り開催することができました。今号では、平成27年10月～平成27年12月開催の研修実績を報告させて頂きます。どの研修会も充実した内容で、受講生のアンケートもそれぞれに高い満足を得られた結果となっています。

平成27年度 鹿児島県看護協会 教育研修実績 一覧表

開催日			内 容	講 部	定員	受講 実績数
月	日	曜日				
10	3	土	鹿児島県のお産を守ろう 第3陣一助産師としてのキャリアを積み上げるために～	①鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 看護部長 向瀬世知子 ②鹿児島市立病院 副総看護師長 園田 良子 ③愛育病院 看護部長 片平久美子 ④鹿屋医療センター 助産師 野元 美穂 他	100	42
	4	日	糖尿病臨床技能能力向上研修	①鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 糖尿病看護認定看護師 井手和美 ②今村病院分院 糖尿病看護認定看護師 佐多 愛子 ③鹿児島厚生連病院 糖尿病看護認定看護師 本田 美里 ④鹿児島市医師会病院 糖尿病看護認定看護師 福島 紗子 ⑤鹿児島医療センター 糖尿病看護認定看護師 赤尾 紗子 ⑥川内市医師会立市民病院 糖尿病看護認定看護師 濱田 知美 他	40	42
	5	月				
	6	火				
	8	木	看護管理者研修	①県看護協会会長 平川 涼子 ②県連盟会長 小原 圭子 ③県保健福祉部看護係長 山下なつみ ④九州大学保健学科准教授 原田 博子	100	100
	10	土	感染管理者研修会	①吉田温泉病院 感染管理認定看護師 吉満桂子 ②大勝病院 感染管理認定看護師 高岡さと子	100	97
	25	日	一般病院医療従事者認知症対応力向上研修(大島地区)	老人保健施設愛と結の街 施設長 黒野明日嗣	200	160
	31	土	看護協会出版会看護セミナー「人が育つこと、育てることー新人、中堅、転職ナースへの職場適用支援ー」	①日本赤十字看護大学 佐々木幾美 ②済生会横浜東病院 熊谷 雅美 ③N P O 法人キャリアサポートセンター 濱田安岐子	200	41
11	1	日	医療安全管理者研修 e-ラーニング受講者の集合研修	名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 寺井美峰子	100	122
	8	日	一般病院医療従事者認知症対応能力向上研修	老人保健施設愛と結の街 施設長 黒野明日嗣	AM 200 PM 200	189 208
	18	水	日本看護協会インターネット配信研修「認知症高齢者の理解と看護(基礎編)」	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 堀部賢太郎 他	—	109
	19	木	日本看護協会インターネット配信研修「高齢者の終末期ケアにおける倫理的問題」	トラストクリニック等々力老年医学センター 大藏暢 他	—	67
	20	金	新看護方式・PNSを学ぼう	①福井医療短期大学 教授 橋 幸子 ②福井大学医学部附属病院 看護部長 上山香代子	200	180
	21	土	平成27年度実習指導者講習会開講	県保健福祉部看護係長 山下なつみ 他		
	24	火	保健指導ミーティング 「スッキリ!ナットク!実践力アップ事例検討会」	①鹿児島市保健所西部保健センター 油田みなみ ②出水市役所健康増進課 永山 智子 ③南さつま市保健課 大迫 裕子	—	50
	27	金	スタッフ育成に活かすコーチング&アンガーマネジメント	AE メディカル 鹿児島支社長 田之瀬智子	100	113
12	2	水	一般病院看護職リーダー研修 「認知症を患う高齢者のアセスメントとケアの実際」	①製鉄記念広畑病院 老人看護専門看護師 森山 祐美 ②南風病院 認知症看護認定看護師 櫻本さつき	80	43
	5	土	看護補助者との連携～より良いケアを実践するために～		80	18
	6	日				
	9	水	第1回 新人助産師合同研修会 「母体・胎児の健康診査他」	①鹿児島市立病院 看護部長 谷口 里子 ②恒心会おぐら病院 副院長兼看護部長 下坂屋道子	200	61
	12	土	エンド・オブ・ライフケア研修会	①鹿児島市立病院 副総看護師長 園田 良子 ②愛育病院 看護部長 片平久美子 ③鹿児島大学医学部保健学科 助教 若松美貴代 ④鹿児島中央助産院 院長 北村 愛	—	19
	12	日	研修に活かす継続教育の基準	相良病院 副院長・総看護部長 江口 恵子 他	80	78
	19	土		日本看護協会看護研修学校 教育研究部部長 渋谷 美香	100	40

平成 27 年度ファーストレベル教育を終えて

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

山田 優子

8月から約5週間にわたり認定看護管理者教育課程ファーストレベルを受けました。私は管理者としての役割の中で、「人を育成する」ことに関して最も興味がありましたが、同時に難しさを感じていました。また部署問題に取り組むうえで、管理全般に関する科学的根拠や理論が希薄であることも自分の課題であると感じていました。そのような時期にファーストレベル研修を受講する機会をいただきました。

研修初日、まだ幼小である2人の子育てをしながら、プログラムをこなすことができるだろうかという不安と期待、緊張の感情が入り混じりながら看護協会に向かいました。会場では各施設から様々な職位を担っている管理者が80名集まっていました。開講式に始まり、この日から管理概論、看護専門論、人材育成論などの研修で学んでいきました。各理論を修得する度に、「あの時の事は間違っていたのか」「もっとこうすればよかったのか」など自身の振り返りと新たな変革計画が頭をよぎりました。はじめは緊張していた80名の仲間が、研修での自己紹介や演習を通して心の距離が縮まり、各施設の取り組みや悩みを打ち明けるまでに関係性が深まっていきました。次第に演習時間がたのしみに変わっていました。日頃、現場で動き回っている私たちが1日約6時間着席し、必死に講義、演習のプログラムをこなすことも容易なことではありませんでした。しかし、日々学習することだけに集中できるということは、現場の管理者やスタッフが、自身の欠員している分を補ってくれているからという感謝の意と自己課題克服の意志が糧となり全日程を終えることができました。

現場に戻った今は、仲間の過半数が無料通話ツールである「LINE」に登録し、日々の葛藤や悩みを共有しながら励ましあっています。私も含め仲間の共通の思いとして、学んだことをいかに現場で活かしていくか、研修前の自己課題をどのように克服していくか試行錯誤しているようです。講義で幾度か教えていただいた「人脈の大切さ」を痛感し、看護師人生において大きなものを獲得したと思います。

ファーストレベルのバトンを次の候補者に渡し、次のステージであるセカンド研修を受講することを目指していきます。



平成 27 年度セカンドレベル教育を受講して

鹿児島市立病院 谷口 里子

今回平成27年度認定管理者教育課程セカンドレベルに、23施設から31名の受講生が参加しました。セカンドレベルの教育理念は「多様なヘルスケアニーズを持つ、個人・家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供し、保健医療福祉に貢献できる看護管理者を育成する」です。講義と統合演習合わせて195時間、3か月にわたる長期研修でした。「看護組織管理論」「人的資源活用論」「ヘルスケアサービス管理論」「医療経済論」「統合演習」などの多くの講義を通し、管理者として明確なビジョンをもち、組織の成長・発展・進化させるという役割と責任があることを学びました。

講師陣の先生も著名な方々で、最新の知識と熱意とパワーをいただき活力になりました。すべての講義において、2025年を見据えた「病床機能分化と連携」や「地域連携医療構想」の動向に合わせた、私たちの意識と行動の変革が求められるものでした。講義はグループワークによる演習が多く組み込まれており、10年後の少子高齢化を迎えるにあたり、組織における自分の役割や施設のミッションや経営戦略・人材育成などのグループ討議をおこないました。グループワークを重ねる中で、それぞれの地域で高齢化は深刻であり、少子高齢化に向けた病院の方策で、病床縮小や病床機能分化の転換を迫られるなど、各施設や地域で10年後に向けた準備が着実に動き出していることを感じました。

講義を受ける中で、知識を得るだけではなく、看護管理者としての想いや経験を振り返り、「何が求められ、どう在り続けるか」、「組織や看護にどのように貢献していくか」という問に真摯に向き合う機会となりました。また、現場の管理者の貴重な経験や自部署の問題を教材とする演習は、多くの気づきや客観的に評価する機会になり、得難い授業であったと思います。

また、何よりも同じ苦難を共に歩んだ仲間との出会いは、看護観、管理観の幅を広げてくれ、かけがえのない財産となり、これから管理人生にとって重要他者と言えます。今後もこの仲間のネットワークを大切にし、新しい情報と知識をもって、管理者として主体的にリーダーシップを発揮していきたいと思います。

最後に、長期間このような研修に参加させて下さったそれぞれの施設や、職場を不在にしている間フォローしてくださったスタッフの皆様、研修中に支援していただいた講師の皆様に深く感謝いたします。



認定看護師紹介

めざせ!認定看護師



認定看護師の活動内容

独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター
がん放射線療法看護認定看護師
江口 洋子

私は、外来の放射線科で専従看護師として勤務しています。主な業務は、放射線治療を受けられる患者が予定通り治療を完遂することができるよう精神的支援を行い、有害事象のGradeに応じて主治医や病棟看護師と連携を図り、身体的な症状コントロールを行うことです。私は看護する上で特に二つのことを大切にしています。一つ目は、患者の症状を自分の目で確かめることです。電子カルテになり、情報はすぐに共有できるようになりました。しかし、実際起こっている症状を患者がどのように捉えているのか、看護師として自分の目で症状を確認し、訴えを聞き、患部に触れることで、患者の症状を捉えるようにしています。放射線治療は毎日のことなので、普段から患者の症状を見逃さないように照射部を観察していくと、いつしか患者自身が自分の身体に関心を持ち、私が観察する前に症状を報告するという変化が生まれます。私はこの経験から、専門的な視点できちんと看ることは、患者自身が自分の身体を主体的に看護していくことにつながると学びました。また観察したことを患者にフィードバックするという過程を丁寧に繰り返すことで、患者は自身の変化を感じ取る感覚を身につけられるのだと考えています。

二つ目は、セルフケア能力を高められるように患者のできることを見出すことです。放射線治療は、治療部位や目的などによって長い期間を要します。また治療開始時期は何も身体的变化がなく、日常のケアがおろそかになるケースもみられます。放射線治療によって予測される有害事象を説明していく上で、なぜ今の時期からケアが必要なのか、目的と根拠を理解できれば、患者自身が自分にとって一番の看護者となるのです。患者ができるを見つけ、できないのであれば、なぜできないのか原因を探求し、できる工夫を提案していくと、患者の習慣は変化していきます。最初から諦めるのではなく、患者自身が治療を受けられる主人公であり、主体的にマネジメントする能力を引き出すお手伝いができるよう意識して関わっています。

“放射線治療は楽ではなかったけど、いつも色々な人達に声をかけられて、気にかけてもらえたから思ったより苦ではなかった”とお話しして下さる患者がいました。専心的に看護する心を大切に、これからも私自身、摸索しながら日々勉強し、より良い看護を目指していきたいと思います。



認定看護師紹介



認定看護師の活動内容

独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター
緩和ケア認定看護師
川畠 博美

私は今年7月に緩和ケア認定看護師の資格を取得し、現在がん系の混合病棟に勤務しています。また緩和ケアチームの一員として組織横断的活動を通し、自分が介入したことで患者・家族が気持ちを整理し前向きに治療に臨めたり、看護スタッフが自ら考え、自律し主体的に動く姿を見た時にやりがいを感じています。

がんの告知、集学的治療、症状緩和を中心におこなう時期など患者さん個々で状況や反応は多様です。当院は地域がん拠点病院として、どの段階にある患者さん家族に対してもそのニーズをとらえ応えていく役割があります。また緩和ケアというとがんの印象が強いですが、その人の思いや疾患のプロセス、価値観を受け止め、関係を作る意図的なコミュニケーションと客観的な立ち位置で先を見通しながら、真のニーズを明らかにしていくことはどんな疾患・治療・時期でも基本になる看護だと考えています。援助者としてその人自身に成り代わることはできないという前提の上で、理解しようと向き合い、語りを聞くステップがなければその人の問題は何なのか、どこに支援が必要なのかは見えてきません。また、いくら専門的知識・技術をもっていても認定看護師一人でできることには限界があり、スタッフ育成がとても重要になってきます。目に見えて効果が明らかなことばかりではなく、これでよかったのか・何もできなかったと看護スタッフ間でもやもやした思い・無力感が残る事例もあります。しかし、だからこそ実践できたことを言語化し、チームで支え合う風土作りが緩和ケア認定看護師の調整すべき大事な役割であると考えています。

当院は循環器、脳卒中、がんの三本柱の専門性を打ち出している病院でもあり、計12名の認定看護師が所属しています。様々な領域の認定看護師とディスカッションする場もあり、院内スタッフの教育と看護の質向上につなげられるよう検討しています。多領域の認定看護師とのつながりは活動をしていくうえでの大きな強みであり、今後必要な時にはコラボレーションしたり組織の改革をしていきたいと思っています。

最後に、認定看護師は知識や技術があっても相談され活用されなければ十分に役割を果たすことはできません。いつでも現場の声が届く、敷居が高すぎない存在を目指し今後、自分の人間性も高めていきたいと思います。



看護師の あるある！

新企画

皆様、ユニホームのポケットの中身気になりませんか？

今回広報委員会のひらめきでいろんな施設の看護師のポケットの中身を見せてもらいました。きっと「面白いもの」や、「予想外のもの」、中には「患者様にもらった飴」とかあったり、と期待半分、恐る恐る見せてもらいました。



100均で買った
ハサミが
お気に入り

内科病棟 20代女性

障害者病棟 50代女性

カワイイバラのハンカチ
私物？キティちゃんの
サチュレーションモニタ



自薬！
ドライアイ？

拾った付箋

3色もマジック!!
何に使うの



障害者病棟 50代女性

外科病棟 20代女性

内科病棟 20代女性



障害者病棟 40代女性

12種類の
グッズあり。



障害者病棟 40代女性

リラックマハンカチで
リラックス(*^▽^*)



急性期病棟 30代女性



外科病棟 20代男性



内科病棟 40代女性



外科病棟 20代女性



外科病棟 30代女性

共通しているのは、ボールペン、油性ペン、電卓、タイマー、スケール、クレンメ、印鑑などでした。一昔前は、テープや、手袋、保護栓、駆血帯、などなどあらゆる場面に遭遇しても対応できるようにいろいろ入れており、ポケットがパンパンになっていたような記憶があります。

でも最近は、ノートパソコンのラックの物品が充実していること、そして安全・感染管理の教育、指導の充実により、ポケットの中身は思っていたよりスッキリ綺麗?でした。病棟機能によりポケットの中身にも特徴があるようです。

アルコール綿や、テープが1、2個入っているのは業務上仕方ないのでは、という結果でした。広報メンバーが調査をする中でそれぞれの管理職の方々のポケットが膨れていて、調査協力を依頼したら「私は勘弁して！」と遠慮？された施設も数箇所ありました。そして可愛いポシェット、ペンケースなどカラフルな文房具や好きなキャラクターの小物を使うことで忙しい業務の中でちょっとした癒しを求めているのでは、と感じました。皆様のポケットの中身はどうですか？

協力してくださった皆様ありがとうございました。

広報委員一同



社会医療法人鹿児島愛心会 大隅鹿屋病院

看護部長

認定看護管理者 重田盟子

大隅半島の中核に位置する大隅鹿屋病院は、昭和63年8月に開設されました。大隅半島26万人、鹿屋市10万人の住民の皆様の期待に応えるために大隅半島で完結できる医療を、目指して創られた病院です。しかし近年は病院の老朽化が進み、水漏れや空調設備の故障などが頻発しH26年11月、旧病院の横に新築移転を致しました。新病院は大隅半島の自然ときれいな水を基調とする水彩の配色になっています。本館は地上10階・地下1階で免震構造を採用し、大隅で大災害が発生しても病院機能を継続できるように設計しています。病院屋上にはヘリポートを備えており、救急外来・集中治療室・手術室と直通エレベーターで結ばれています。広い大隅地域で発生した重症患者の迅速な搬入・治療が可能となり、また当院で対応できない患者様も鹿児島市内などに速やかに搬送できるようになりました。

新規導入された医療機器の中で、ハイブリッド手術室に配置された「Artis Zeego」という高性能な透視・撮影装置と最新型の320列CTなどは大隅半島における高度医療に貢献できると思っております。また別館は地上2階、レクチャーホールを設備し大隅半島での研修会場としてもご利用いただいております。

病院の理念である「生命だけは平等だ」のもと、年中無休・24時間オープンで救急医療を提供しています。H26年度は救急件数の受け入れが2000件を超えるました。当院にない脳外科や産婦人科、小



平成27年度新入職員

児科などは近隣の施設と連携をとり、紹介をさせて頂き患者様が安心して医療が受けられるように、地域でのネットワークづくりにも力を注いでおります。

看護部のキャッチフレーズは「心に届く看護」です。高齢化率が30%を超え、昨年の入院患者様の平均年齢は75歳でした。入院された患者様やご家族様が「この病院で良かった。」と言っていただける看護や介護を提供させていただいております。誰もが平等に迎える老後を安心して、住み慣れた地域で生活できるように通所リハビリテーションや訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所もお手伝いさせて頂いております。

この大隅地区では、他10施設と協働して地域で新人看護職員を育てていく組織風土があります。OST（大隅地区新人看護職員研修チーム会）と名付け、新卒1年目から3年目まで全体で研修や教育を実施しています。

当院では、毎年十数名の新人看護職員が入職しますが、同じように中途採用者が多いのも特色のひとつです。中途採用者の教育も新人と同じように実施しており、組織で育てていく風土が根付き新人看護師の1年未満の離職は0%を更新、全体での離職率もH26年度は8.3%でした。また、ワーク・ライフ・バランスの活用により、育児短時間勤務や多様な勤務時間の種類をそろえ生活に合わせた働き方を相談しながら選択でき、子育てのしやすい職場づくりを心掛けています。

現在、3名の認定看護師（感染・救急・集中ケア）が在籍し、他にも糖尿病や透析など指導士の資格を多数、取得しております。「頑張る あ・な・た」を応援している病院です。

近くにお越しの際は、是非お立ち寄り下さいませ。お待ちしております。



平成27年7月よりドクターヘリ運行開始

Hospital Information

許可病床数	313床
一般病床	215床 (7対1入院基本料) (病床稼働率95%)
障害者病棟	90床 (10対1入院基本料)
ICU	8床 (特定集中治療室管理料)

♡ 事業検討会を開催

平成 27 年 12 月 12 日、看護研修会館において会長をはじめとした執行部、各地区長、職能委員長、常任委員会委員長、特別委員会委員長が参加し平成 27 年度の事業中間評価と平成 28 年度に向けての課題及び事業計画について検討会を開催しました。本年度の事業は、当初事業計画に新たに九州地区高齢者ケア施設管理者研修や訪問看護師のための感染対策講習会等日本看護協会事業等も入りましたが、概ね計画どおり進んでおり、下半期についても計画どおり実施していくことを確認しました。また平成 28 年度の事業計画については各委員会や地区事業研修企画等調整や情報交換等活発な意見交換がなされました。

今後、出された御意見を調整し平成 28 年度事業を計画していきます。



♡ 「平成 27 年度 地区別高齢者ケア施設の看護管理者交流会」を開催しました !!

平成 27 年 11 月 28 日（土）鹿児島市立病院 1F 多目的ホールにて、「平成 27 年度 地区別高齢者ケア施設の看護管理者交流会」が行われました。

内容としては、

- ・「施設看護をとりまく制度の変化と看護管理」
　　日本看護協会 斎藤訓子常任理事
- ・「マネジメントの基本となるコミュニケーション」

および演習

株式会社キャリアネットワーク
常務取締役 清家三佳子 先生



・グループワーク、発表・講評という流れで行い、参加者からも「他施設の看護管理や他職種との連携、協同体制の情報交換が活発に行えた」など、参加してよかったとの声が聞かれ、61 名の参加者のもと、楽しく充実した交流会となりました。



♡ 「平成 27 年度 訪問看護師のための感染対策講習会」に参加しました !!

訪問看護ステーションかごしま 前田 美幸

平成 27 年 10 月 31 日（土）鹿児島市医師会館 3 階大会議室にて、N P O 法人 H A I C S 研究会及び鹿児島県訪問看護ステーション協議会主催の標記講習会が以下のとおり開催されました。

- ・「感染予防の視点で見直す在宅ケア～うつらない・うつさないためのポイント」

講義 日本看護協会看護研修学校 認定看護師教育課程感染管理学科
専任教員・感染管理認定看護師 渋谷智恵 先生

演習 指導 渋谷智恵 先生

東京都保健医療公社住原病院 感染管理担当看護師長

感染管理認定看護師 他 黒須 一見 先生

講義の他、演習・動画視聴とグループワークがありました。

演習では、手指消毒と個人防護具の着脱について、動画では訪問して居室へ入室からバイタル測定・褥瘡処置を行い退室までの中での問題点をグループで話し合いました。

これからインフルエンザやノロなど感染に注意が必要な時期になるため、在宅での感染対策について学びを深めることが出来、とても良かったです。



地区だより

南薩地区

教育委員会の活動 平成27年6月6日(1回目)・平成27年7月4日(2回目)

南九州市さくら病院にて開催

講 演：「うつ病とストレス その対策について～うつ病の基本～」「～具体的対応方法～」

講 師：玉水会病院 長友医継先生

参加者：1回目（24名） 2回目（22名）

内 容：基本編と具体的実践編の2回シリーズでの構成

うつ病とストレスについて基本的なことをスライドと講話でわかりやすく講義していただいた。具体例も多く示され又実際にリラクゼーションの体操等もあり参加者からは「楽しく参加できた。この研修を役立てて楽しく生き生きと仕事をしたい。」「傾聴するということがいかに大事かわかった。」「職場における対応の中で実際に配慮できていない所があったと感じた」

「医療従事者として共感できもっと知りたいと思った。」などが聞かれ実際の仕事や日常生活にも役立てられると感想が述べられていた。

褥創予防研修会 平成27年10月31日

会 場：小原病院 参加者：50名

講 師：皮膚排泄ケア認定看護師 中村ひとみ先生
小原病院 P T 前田幸明先生・O T 橋口大毅先生
小原病院 管理栄養士

内 容：中村先生の褥創に関する座学とPT,OTによる実技、ポジショニング・シーティングのデモンストレーション及び実技と栄養管理がプログラムされており参加者からも「実際の看護ケアに役立つ内容で意義ある研修会だった」という意見が多くなった。研修に多大な協力をいただいた小原病院のスタッフに感謝します。



感染症予防対策研修会 平成27年11月14日

会 場：薩南病院 大会議室 参加者 41名

講 師：感染管理認定看護師、山之内聰子先生 長崎奈穂先生

内 容：基本の消毒、滅菌から手指衛生、標準予防策についての講義

疾患別感染予防対策ではこれから季節に向けてインフルエンザ、ノロウイルスなどの講義があり興味をもって受けることが出来た。



地域ケアサービス委員会の活動

活動内容：「砂の祭典」「吹上秋祭り」「大浦祭り」「市来串木野地かえて祭り」「健康ふれあいフェスタ」「顛娃ごっそい祭り」に会員が参加し地域住民との交流を通して看護協会をアピールしています。平成27年度は新たに指宿地域の山川港祭りでの健康相談等事業参加をしました。多くの住民の方が健康相談に来られ看護協会ののぼりを見て興味を示してくださいました。



南薩地区医療安全情報ネットワーク連絡会

活動内容：現在山川病院・県立薩南病院・小原病院・指宿医療センター・加世田病院・博悠会温泉病院・今林整形外科病院・伊藤記念病院・指宿浩然会病院の参加により連絡会を実施しています。委員会報告や地区的医療安全報告と対策検討・取り組み・研修情報提供などの活動を行っています。平成27年度は転倒転落防止対策について各施設の現状を共有し検討を重ねています。

※南薩地区でまだ参加されていない施設・病院の方ぜひ参加をお願いします。



川薩地区

教育委員会活動

●第1回教育研修会 平成27年6月20日開催●

テーマ：「ここでの必要なカラーコーディネートについて」

参加者：82名

川薩地区集会後に日本色彩コーディネーター協会長 鮎島初美先生の講演を行いました。多くストレスを抱え日々活躍する我々看護職の興味ある内容だったと思います。色の活用等で自分の気持ちや印象が大きく変わることを知り、活用したいとも感じました。

<アンケート結果>

- ・患者案へのケア、職場スタッフとの関わりに活用できそう。
- ・黒を捨てピンクを着て心を変える努力をしたいと思います。
- ・自分自身をもっと好きなり、カラーを組み合わせてかわいくなります！！

等、前向き意見が多く聞かれました。

●第2回教育研修会「褥瘡ケアの基礎」平成27年10月24日●

テーマ：「褥瘡ケアの基礎」

講 師：皮膚排泄ケア認定看護師 高田マキ先生（出水郡広域医療センター）

参加者：12名（訪問看護ステーション、介護施設、クリニック等）

機材・器具・材料等の提案の他、ベッド上での生活、何気なく実施しているギャッジアップにどんなに違和感があるか実際に体験しました。「よし明日からは背抜き・圧抜き確実に…」を合言葉に、褥瘡予防を確実に実践し「褥瘡発生0を目指そう」と実感した研修となりました。



<教育委員会活動計画>

・12/5（土）「あなたの常識はワタシの常識ではない」

講 師：山口大学 臨床薬理学分野教授・附属病院薬剤部長古川裕之先生

・2/20（土）「腰痛予防－ノーリフト－」

講 師：日本ノーリフト協会 保田 淳子先生

新人看護職合同研修会

目的：「川薩地区における新人看護職員が生き生きと働き続けられ、看護の質向上、新人看護職員のネットワーク構築を図る」看護師として患者を「見る」ために「倫理的」に考え「地域（包括ケアシステム）」の中での看護職の役割を考えながら、生活者としての患者を支えられる看護師をめざし、研修を計画しました。

●第1回研修 平成27年7月11日開催●

目的：「看護者の役割～患者さんを看よう」

講 師：集中ケア認定看護師 猿楽大輔

参加者：52名参加 フィジカルアセスメントの基本を学びました。

●第2回研修 平成27年9月5日開催●

目的：現場の倫理的ジレンマを「個人の悩みにしないために」

講 師：板井 孝亮朗先生

参加者：新人対象者 44名参加、その他 34名参加
日々の業務の中で倫理的な問題を個人的な問題にしないために、また倫理的な視点について学びました。

今後の計画

第3回 1月30日開催予定

「地域包括ケアにおける看護師の役割」

第4回 3月12日開催予定

「私の目指す看護師」



看護 かたらん会

看護管理者の交流会、研修会です。

●第1回 交流会 10月13日開催●

地域の看護管理者が集まり情報交換会を行いました。参加者は13名でした。

第2回 語らん会研修 11月21日開催

テーマ：「人を教えること、育てるこことは」～教育的な関わりの本質を考える～

講 師：目黒 悟先生

管理者だけでなく地域の看護職育成に係る方を対象に実施しました。プリセプター、教育担当、管理者等役割は様々で、参加は51名でした。

アンケート結果：「自分の指導や自分自身の振り返りができた」「相手のことを理解しともに育つ」「コブラにならない」等、多くの感想があり今後活かしていくそうです。



地域ケアサービス

●救護班として参加した事業●

さつま町夏祭り（4名）、薩摩川内市市民運動会（5名）、つくし園運動会（1名）

●まちの保健室●

10月17日（土）「プラッセだいわ 川内店」

来場者111名。脳年齢、血管年齢の希望者が多く、小学生～高齢者迄多くの方に来ていただきました。健康に対する意識が高く、日ごろ気になっていることもたくさん相談されたようです。

<今後の計画>

地域のイベント開催で救護などの要請を受け活動しています。今後、3月「川内川河口マラソン」、5月に「まちの保健室」を予定しています。

川薩地区医療安全ネットワーク

7月、10月に会議を開催し、6～7施設の参加があり、各施設のインシデント事例の検討や、医療・看護安全対策検討委員会の情報提供などを行っています。

「都道府県看護協会地区支部等における看護職連携モデル事業」

地域での看護職間のネットワーク強化を推進するためのモデル事業です。

川薩地区はこの事業への参加が採択されました。

医療、介護、行政、福祉関係者それぞれの疑問や、課題・要望について理解し、お互いに顔の見える地域ネットワークシステム構築に向けて取り組みたいと考えています。

H28年2月27日（土）9:00～12:00

懇親会 12:00～

（クオラリハビリテーション病院

5階クオラホール）

講 師：青木正人（株式会社 ウエルビー）

対 象：在宅・保健・医療・介護・福祉に携わる全職員です。

姶良・伊佐地区

平成 27 年度 姉良・伊佐地区の活動を報告いたします。

始良・伊佐地区集会 平成 27 年 7 月 11 日(土) 溝辺みそめ館で開催時、教育研修も実施致しました。

講演 「他職種で連携を図りながら地域で暮らす認知症看護を支援するために」

講師 社会福祉法人東翔会 グループホームふあみりえ 大谷るみ子先生

参加者 114 名 (会員 96 名 非会員 18 名)



教育委員会活動

●第1回新人看護職員研修 テーマ「感染対策の基礎知識」「褥瘡予防の基礎知識」

始良・伊佐地区新人看護師 研修対象者 47 名中 24 名の参加者のもと 7 月 25 日(土)に実施いたしました。実際のデモンストレーションを取り入れた研修は実践現場で役立つ内容であるとの評価が得られました。

講師には看護の質向上に取り組み、スペシャリストとして活動している認定看護師の協力を得、実施しています。今後も新人看護職員の教育を継続していき、大事に育てていきたいと思います。



●地区研修 テーマ 「感染管理の実際」事例検討会 10 月 3 日(土)

3 施設より、アウトブレイク発生事例を発表、意見交換を実施、感染管理認定看護師の助言を受け今後のアウトブレイク時の対応についての知識を深める機会となりました。

医療安全研修 11 月 3 日(火) テーマ「医療安全の醸成 ~活用しよう、チーム STEPPS」

講師 愛媛大学医学部付属病院 医療安全管理部 戸田由美子先生

106 名の参加者があり、参加型研修内容で企画しました。チェックバックをおこない、スタッフ、医師とのコミュニケーションの重要性を再認識する研修会となりました。次年度は事例検討を取り入れた研修を予定しています。

専門職として、医療現場や在宅看護に活かせる知識・技術の向上を図りひとり一人のスキルアップに繋がれば地域の看護の質向上に役立つと考え今後も取り組んでいきます。

地域ケアサービス委員会活動

町の保健室

事業名 ふれあいレクレーションのつどい(霧島) 事業名 溝辺ふるさと祭り

日 時 10 月 18 日(日) 日 時 10 月 25 日

相談者 81 名 相談者 88 名

事業名 ふるさと産業祭り(伊佐)

事業名 もみじ祭り(伊佐)

日 時 11 月 7~8 日(土・日)

日 時 11 月 23 日

相談者 130 名

相談者 39 名

地域のイベント開催時に「まちの保健室」として住民の方々の健康相談や血圧測定等を行い、看護職の PR 活動と、交流を目的に活動しています。



看護の出前事業

県ナースセンターからの依頼を受け、高校生への「いのちの大切さ。性教育」を 10 月 23 日 霧島市立国分中央高校 全校生徒 814 名 他職員 36 名を対象に地区会員、保健師、緩和ケア認定看護師の協力のもと実施しました。

自分自身の性を守ることの重要さ、命の尊さを学んでいただいた貴重な場の提供となりました。

ナースセンターだより

Vol.115

★看護職再就業支援セミナー報告

【鹿児島地区】

第1回：7月22日～31日（うち3日間）

第2回：10月21日～31日（うち3日間）

今年度は3日間コースを年2回開催し、県内各地から35名が受講しました。看護経験、年齢、ブランク期間も1年以内から20年以上までと様々な受講生。看護師としての復職に向けて熱い気持ちは共通で、お互いに声をかけ合いながら参加し、最新の医療や看護について学び、最終日は病院、老人保健施設、訪問看護ステーションなどで実務研修を行いました。実習施設の皆様、ご指導と復職支援をありがとうございました。

研修後は、12月末現在で10名の方が再就業しています（病院8名、デイサービス1名、検診業務1名）。看護職として働き続けるために…。

ナースセンターは、看護職の皆様を応援します！



託児室の様子



【奄美地区】

11月10日～16日（うち3日間）

大島地区的セミナーには、未就業者と就業後1年未満、公開講座参加の看護職まで含めて10名の受講がありました。少人数での開催となりましたが、とても有意義なセミナーとなりました。

地区的看護職、施設の皆様がセミナー開催に快くご協力ください、地域での職場復帰への期待の大きさを感じました。参加者のうち未就業者2名はブランク期間が長く、今後少しづつ現場復帰できるよう支援中です。



皮膚排泄ケア講義風景

★WLB推進フォローアップワークショップを開催

看護協会が主催するWLB推進ワークショップ事業は平成27年度の募集で最後となります。これまで総計16の施設が取り組みを行いました。昨年5施設が3年間の取り組みを終え終了となりましたので、現在、本事業に取り組んでいるところは11施設となります。

今後は、27年度から参加の4施設が取り組みを終了する平成30年3月まで、年度ごとの経過報告と終了報告会が開催されることとなります。

さる12月11日に平成27年度から参加の4施設のフォローアップと25年度から参加の4施設の最終報告会を開催しました。参加者は23の施設から94名の参加となりました。27年度からの参加施設は、8月のワークショップで抽出した自施設の課題についての取り組みを発表し、支援者や社会保険労務士会、日本看護協会の小村由香先生などからの助言を得ることが出来ました。一方、27年度から参加している3年目施設は取り組みにおける結果を発表しましたが、すべての施設で大きくWLB推進が出来ているという報告がなされました。WLB推進の課題はそれぞれの施設によって異なりますが、

- ①職員がWLB推進の意識を持つことだけでも成果が上がる、
 - ②職員が“看護のやりがい”をもって働くことがWLBを推進する原動力であった、
- という報告は参加者にとって深い学びとなりました。

このWLB推進事業先行施設からの学びを、他施設が自施設でのWLB推進の取り組みに生かしていくってくれるよう期待しています。



it's new

看護師等の届出制度「とどけるん」現状報告

平成27年10月から始まった「届出制度」は、12月15日現在234名の届出がありました。その中の約6割の方が、「e-ナースセンター」にも連携登録し求職活動中です。1月7日から、「とどけるん」登録者向けに、以下のような情報をお届けいたします。

【生活情報コンテンツ】

- *育児・介護などの日常生活に役立つ情報
- *旅行やリラクゼーションなどの仕事で疲れた心身を癒すリフレッシュ情報

【看護職に関するコンテンツ】

- *ナースセンター活用について紹介
- *離職後に復職された先輩ナースの復職ストーリー
- *働き方も場所もこんなにある！…職場最前線など
- ※「とどけるん」登録者のログイン後のマイページに掲載
- ※届出登録について、コンテンツ利用についてなど
お気軽にナースセンターに問い合わせてください。



看護師等の届出サイト「とどけるん」

<https://todokerun.nurse-center.net/todokerun/>

ナースセンター・ハローワーク連携事業



離職届制の開始に伴い求職者の増加が見込まれることを踏まえ、10月から「ナースセンター・ハローワーク連携事業」が開始されました。公的無料職業紹介所である両者が連携して、きめ細やかな相談対応と求人施設と求職者の橋渡しが行えるようにすることが目的の事業です。

現実的にはナースセンターの知名度が低いことから伸び悩んでいる求人・求職者数を、ハローワークがサポートすることにより、数を増加させ就業率を向上させることができます。開始以来これまでに、了承を得られた求人数64件、求職者24人がハローワークからナースセンターへ連携紹介となりました。

特に求人施設では、“看護職だけを対象とする事業所があることを知らなかった”“ナースセンターが無料職業紹介所であることをはじめて知った”などの言葉がきかれました。より多くの施設に登録していただくことで、求職者にとって選択の幅が広がり、個々人に合った施設を検討することができやすになりました。求職者が自分の生活も大切にしながら、生き生きと働き、ひいては医療現場のニーズにもこたえられるように育てていきたいと願っています。





訪問看護師養成研修報告

27年度育成研修受講生

【平成27年度訪問看護師育成研修】が終了しました。
平成27年6月5日～11月14日まで24日間137時間
26名の方が受講されました。(これまで857名の方が終了)
講義や実習、グループワークを通して、貴重な体験を
し、新たな課題を見つけて終了されました。



=受講生の声=

グループワークを
通して仲間の
大切さや繋がり
を感じた。



様々な環境で訪問看護師を
している仲間に会い、
思いを語るGWはとても
学ぶものがあった。

グループワークは苦手で
あったが、メンバーの看護観や
ライフスタイル、価値観の違い、
考え方、人の話を聞く、
自分の意見や考えを
言葉にする等
多くのことを学ぶ。

相談できる仲間
ができて心強い。



生活者としての援助することの
大切さを学ぶ。
『来てくれてよかったです』と思われる
訪問看護師になりたい。



訪問看護師育成のために御指導頂きました
講師の方々、実習をお引き受け下さいました
施設の皆様には心より感謝申し上げます。

一平成28年度 ふれあい看護体験施設募集

看護の心をみんなの心に

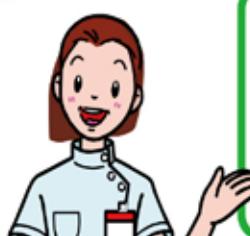
ふれあい看護体験とは、病院・施設が地域住民
を対象に、見学や簡単な看護体験を通して、「看
護の仕事」について知ってもらうイベントです。

来年度の、ふれあい看護体験実施施設を募集
します。ぜひ、看護の扉を若い世代の子どもたち
に開いてください。



平成27年度
体験者数 511名
実施施設数 47施設

*詳しくはナースセンターまで、お問い合わせ下さい
申込締切 2月19日(金)まで



【求人・求職登録状況】

(平成27年11月)

※新規求人情報 472人

※新規求職者数 291人

※就職者数 21人

鹿児島県ナースセンター

[看護師等無料職業紹介所 46-ム-010002]

★窓口・お電話でのご相談★

相談日：月～金 午前9:00～12:00
午後1:00～ 4:00

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町21-5

TEL: 099-256-8025

FAX: 099-256-8079

mail: kagoshima@nurse-center.net

ホームページ <http://k-kango.jp/>

理事会報告

第5回理事会

平成27年11月21日(土) 13:30~17:00

16名出席

◆ 協議事項

1 基本方針

- 1) 平成27年度重点事業及び事業計画の中間評価について
- 2) 平成28年度重点事業計画(案)について
 - ・重点事業及び教育研修について

2 事業推進に関する事項

- 1) 医療事故調査制度に係る支援団体の役割について
 - ・医療事故調査制度の概要
 - ・本会及び日本看護協会の相談体制について
- 2) 准看護師養成停止及び看護師養成課程への転換に向けた具体的な取り組み等

3 管理的事項

- 1) 新「会員情報管理体制」導入に伴う本会の定款、細則等改正について
- 2) 災害時の連絡体制について

4 会員支援

- 1) 新「会員情報管理体制」導入に係る周知について
- 2) 日本看護協会長表彰及び日本看護協会名誉会員の推薦について

★ 報告事項

1 基本方針

- 1) 特定行為研修機関設置に係る鹿児島大学への要望活動について
- 2) 医療勤務環境改善支援センター設置等に係る県医師会への要望について
- 3) 地域医療構想に係る各地区の懇話会への各地区的参加状況について

2 事業推進に関する事項

- 1) 看護職員就業相談事業について
- 2) 看護職員県内就業促進事業について
- 3) 助産師出向支援・研修事業について
- 4) 平成27年度看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップについて
- 5) 訪問看護師のための感染対策講習会、九州地区高齢者ケア施設管理者研修について
- 6) 地区別法人会について
- 7) 平成27年度災害支援ナース派遣調整合同訓練について

3 管理的事項

- 1) 議事録(理事会・運営委員会)
- 2) 看護協会の広告について
- 3) 寄付金(県医師会、鹿児島大学)について
- 4) 会員の入会状況

★ その他

- 1) 平成28年度通常総会に係る講師の変更について

※毎回、日本看護協会理事会報告・職能委員会報告を口頭で、前回開催の理事会議事録・運営委員会議事録、各委員会報告・他団体会議報告・県外出張報告を書面で行っています。

主な業務施行理事等の動き

日 時	会 議 名	出 席 者
平成27年9月24日	医療事故調査制度に係る説明会	副会長
平成27年9月25日	日本看護協会理事会及び法人会員会	会長
平成27年9月30日	第1回医療分野の「雇用の質」の向上のための企画委員会	常任理事
平成27年10月1日	第16回介護保険推進全国サミットinひおか	会長
平成27年10月1日	新「会員情報管理体制」都道府県看護協会担当者説明会	専務理事・会員管理担当者
平成27年10月9日～11月20日	鹿児島県内看護学校戴帽式	会長・副会長・専務理事・常任理事
平成27年10月20日	鹿児島市地域密着型サービス運営委員会	専務理事
平成27年10月26日	医療事故調査制度支援団体等連絡協議会	会長・専務理事
平成27年10月27日	女性団体役員会・理事会	会長
平成27年10月29日～10月30日	地区別法人会及び職能委員長会	会長・専務理事・保健師職能理事・看護師職能理事・助産師職能委員・看護師職能II委員
平成27年11月20日	日本看護学会運営会議	常任理事
平成27年11月25日	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院長訪問	会長・専務理事
平成27年11月26日～11月27日	日本看護協会理事会及び法人会員会	会長
平成27年12月3日	鹿児島大学医学部保健学科長訪問	会長・専務理事・常任理事

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

平成27年は皆さまにとってどのような年でしたか? 桜島の噴火レベルがあがり緊張した一方、ラグビーでは日本中が感動しました。今年はどのような年になるか楽しみですね。

今回は病院紹介で記事協力いただいた大隅鹿屋病院の写真を表紙に致しました。

今後もお気に入りの写真や季節感のある写真・職場スタッフ集合写真等も募集しておりますので、ご協力お願いします。皆さまにとって、平成28年が素晴らしい年ありますように。

広報委員一同

看護専門職として
社会に貢献しよう



会員の増加と福祉の
向上のため活動しよう

公益社団法人 鹿児島県看護協会

鹿児島市鴨池新町21-5
TEL.099-256-8081 FAX.099-256-8079
URL <http://k-kango.jp>
E-mail kakankyo@orange.ocn.ne.jp